ねこねこ。

01

猫間れん

ねこねこ。01

ネコを買った。
１００円で済んだ。
よかった。
なにがよかったかといえば、値段だけのことじゃない。
そのネコは、『えなじー』を発する特殊能力をもっていたのだ。

『えなじー』。
なんてステキなネーミングセンスだろう。
エナジーじゃなく、『えなじー』。
それは世界を救うとされている。
偉い科学者たちが集まって、そう決めたらしい。
しかし、彼らはその真の力を知らない。
知っているのは……そんなの僕が知っているわけがない。

「ネコ」
僕は猫を呼んだ。奴は庭で遊んでいた。
「貴様に名前をつけてやる」
「にゃー」
とりあえず奴は喜んだらしい。しっぽを逆立て、こちらを威嚇している。
僕はそれを気にせず、あごに手をやった。
「一般的に考えて、タマだな。単純にしてもポチだ。しかし、これではおもしろみがない。もっとグレイトな名前をつけてやる。待っていろ」
僕は旅に出ることにした。
財布の中身を確認していると、猫がすりよってきた。
「にゃー」
「なに、貴様も行きたいのか？」
「にゃー」
「しかたない、貴様も連れていってやる。乗れ」
「にゃー」
猫を頭の上に置き、僕は歩きだした。

◆

たばこ屋についた。
なんでそんなところを目的地にしたかといえば、ここのばあさんはなんでも知っているからだ。

年の功というやつで、ばあさんは今年で１１４才になる。猫につけてやるいい名前も知っているに違いない。
「ばあさん、タバコ」
「はいよ」
話を聞き出すため、僕はいちばん安いタバコを買った。
しかし、僕は未成年だった。
「貴様が吸うか？」
「にゃー」
猫が乗り気だったので、僕はその口に一本くわえさせた。たまたま持っていたサングラスもかけてやる。
「ぬう」僕はうめいた。「ダンディだぜ」
やたらと気取っている猫。僕の中に怒りの感情が生まれた。
「貴様、ゆるさん」
タバコに火をつけてやった。煙を吸い込み、けほけほと猫がむせる。
「ざまーみろ」
動物虐待。
「にゃー」
奴は抗議の声をあげた。その瞬間、僕は自らの行動を後悔した。
訴えられる……。
「にゃー」
奴が声をあげた。僕はなにも言えず、そのまま裁判所に強制連行された。
「にゃー」
奴がいろいろと手続きをしている。
すぐに裁判ができるのか？僕は疑問に思ったが、どうやら奴は顔がきくらしい。
僕は被告人席で、ひどく肩身がせまい思いでいた。
「にゃー」
罪状が読み上げられた。
身に覚えのない罪名が多数あったが、簡単に説明すると、人権……いや、ネコ権侵害ということだった。
よって、判決。
「にゃー」
死刑。
「くそぅ」
僕はガックリとひざをついた。
ここで終わりか。えんど・オブ・人生だぜ……。
しかし奴は、うなだれる僕の肩に手を置いた。
ぽん、と。

「……許してくれるのか？」
「にゃー」
「……せんきゅー」
僕と猫は、仲良く裁判所を出た。

この事件（訴訟）のおかげで、前にも増して仲良くなった気がする。こうやって数々の苦難を乗り越えて、僕たちは成長していくのだな……と、そんなことを思った。
「そういえば、貴様の名前を決めていなかったな」
「にゃー」
「ふむ、いろいろ考えたが……やはり『貴様』というのがいちばんしっくりするな」
「にゃー」
「よし、行くぞ『貴様』」
「にゃー」
僕たちはまた、新たな旅に出る……。

（ＥＮＤ）

ねこねこ。01

http://p.booklog.jp/book/54839

著者：猫間れん
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/nekomaren/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/54839

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/54839

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ